

栃の木からの手紙

2020年 睦月 1月号



1995年1月17日、朝の事だったろうか？
北海道で活動する身としては、申し訳ないが遠くの出来事。そして、2011年3月11日東日本大震災。今では、毎年のように日本のあちこちが災害に見舞われ、少なからず影響を受ける様にもなり他人事ではなくなってきた。特にJR貨物の物流がストップしたり停電になったりするのは、間接的でも生活に伝えます。

6日： 小寒：

11日： 満月 旧12月17日

17日： 阪神淡路大震災(防災とボランティアの日)

20日： 大寒

25日： 新月 旧正月1日

12月11日、久し振りに訪れた栃ノ木は、雪に覆われる事無く、晩秋の装い。例年では、5日前後には、根雪の状態になっている。今年の冬は、15日に降った雪が薄らと畑を覆い雪の無い所が多く見受けられる。今年の晩秋の気候を春と勘違いして？生育していた山野草が多かった中、樹皮がひび割れ剥げた栃ノ木は、この気候状況をどう感じているのだろうか？

北海道農業の主要作物の一つビート。10月中旬より美幌町内にある日本甜菜製糖(株)で始まったビートの製糖作業。それに伴いビートの集荷作業も始まったが、ビートの作付け面積や地域によって集荷の回数とか、集荷の時期が替わり、生産者に集荷の不公平感が無い様に集荷調整がされています。今回、私の地区は最終の集荷になり、ビートの山に掛けたシートの処理は積雪で苦勞する予定でしたが、集荷日の21・22日頃でも積雪が殆ど無く作業が楽に済みました。280トンのビートを大型ダンプに積込み作業する向こう側に斜里岳が見えていますが、山全体が真っ白になっていません。しかも、写真手前には、緑の秋播き小麦が見えています。それ程に雪が少ないのです。

昨年からビートの遊離土(土を含むビートの屑)を植物質堆肥として別管理していますが、収穫後のアスパラ畑に散布して使用しました。今回、ビートの出荷で戻ってきた遊離土は、前回同様にアスパラ畑の傍に集積して堆肥化を始めました。





2019年作物の出荷量

2019年 1月号

12月24日、サンタさんがトナカイの橇が滑らなくて困っているだろうと囁かれている程に雪が少ない。

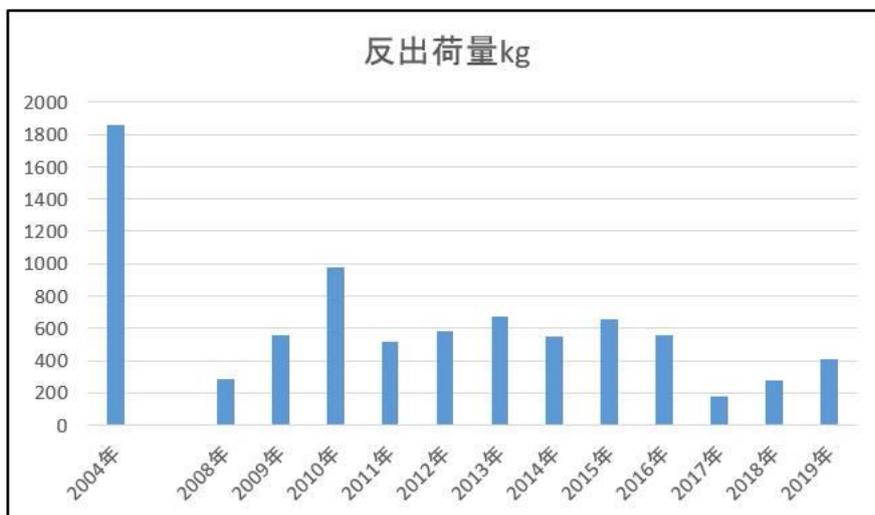
この冬は、土中のシバレを深くするために雪踏みを予定していますが、まだまだ雪が表面を浅く覆っているだけなので雪踏みの必要は無さそうです。

芋の連作を永年続けていると、芋を収穫した時に予定以外の品種の芋が収穫されてきます。当農場では、見分けの簡単な品種を作付けして個選箱詰めをしているので、他品種が混ざって来ても選別が出来ます。それでも、無駄な作業は極力しない方が良いので、雪踏みで野良芋を退治しようという考えです。

【 きたあかり 出荷量 経年変化 】

自然農法・有機JAS きたあかり 出荷推移

出荷	年	反出荷量kg
大 コ ン 一 括	2004年	1860
	2008年	285
	2009年	555
	2010年	974
	2011年	512
個 選 箱 詰 め	2012年	582
	2013年	669
	2014年	550
	2015年	652
	2016年	558
	2017年	182
	2018年	279
	2019年	412



自然農法・有機JAS 出荷量 推移 反当たりの出荷量(kg)

作物名	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	
とうや	出荷量kg		340	980	924	1790	2016	230	1023	663	1873
	反収kg		425	653	525	471	458	59	176	221	506
	面積a		8	15	18	38	44	39	58	30	37
きたあかり	出荷量kg		1280	990	1913	2640	2086	2175	547	1368	1278
	反収kg		512	582	669	550	652	558	182	279	412
	面積a		25	17	29	48	32	39	30	49	31
さやあかぬ	出荷量kg		6360	2757	1648	1780	3330	2305	975	4110	2871
	反収kg		1010	501	832	774	640	623	222	874	598
	面積a		63	55	20	23	52	37	44	47	48
ノーザン ルビー	出荷量kg		0	110	534	987	745	485	456	1095	2098
	反収kg		0	220	40	581	414	269	228	365	806
	面積a		1	5	13	17	18	18	20	30	26
シャドー クイン	出荷量kg		0	0	188	378	375	315	30	271	828
	反収kg		0	0	137	210	188	175	25	194	360
	面積a		1	3	14	18	20	18	12	14	23
黒大豆	出荷量kg				0	74	150	91	0	90	355
	反収kg				0	124	115	57	0	41	169
	面積a				4	6	13	16	24	22	21
ビーツ	出荷量kg			試験栽培		試験栽培				生産量	80
	反収kg										400
	面積a										2

今年は、例年より10日程早くに芋の播種作業を行いました。

畑の近くに李の木があるのですが、今までは李の白い花が満開の時期に芋を播種していましたが、今年は、開花前でした。

李の花が満開の頃、黒大豆の播種を行いパオパオシートを掛けて大豆のハト害を防ぎました。

新作物としてビーツを導入し次期は苗立てをしっかりとって面積を増やす予定です。

～ 暦 と 気 象 ～

2020年 1月号

昨年、雪融けが4月6日。その後雪が降っても直ぐに融け4月19日から23日で、一般のジャガイモの植付けを行いました。ビートの移植は4月28日から始まり連休中に移植完了。続けて自然の芋の播種を5月6日から8日で完了しました。例年に無く順調な播き付け作業でした。雨が少し降っても全体的に早魃気味ですぐに乾いて作業が出来る状態になったことが作業を早めてくれた様です。ところが、5月20日から22日に強風による砂嵐が吹き荒れました。当農場は、被害を免れましたが、近隣町内外で多くの被害が発生しました。近年、労働力の減少でビートを直播といって直接畑に種を播く作業形態に変えている人が被害に遭いやすくなっています。今回はビートのみならず、芋に盛り上げた土が強風で飛ばされてしまう被害もありました。当農場では、スプレーヤーという農薬散布機で水だけを入れて5月16日から少しでもビーツやビートに散水を行い、早魃を凌いでいましたが、強風の後には特に散水に力を入れていました。

今年の作柄はどの作物も良好な状況でしたが、出来過ぎたばかりに値段が安いという問題も付きまっています。

暦 と 気象 に関する俚諺の一つに次の様なものがあります。

皆さんもちょっと心に留めて今年1年の気象、古人の思いを推測してみませんか？
目に見えない大切な事にこころを向けて見ませんか？

☆ 雨量 と 地下水

雨量 ⇒ 旧正月元日から最初の未の日までの日数でその年の雨量を予知

元日 が 未 ⇒ 1合水 早魃

三日目が 未 ⇒ 3合水 早魃

十日目が 未 ⇒ 1升水 大水

地下水 ⇒ 正月元日 から最初の未の日の日数

2020年令和2年庚子

旧正月 1月25日

最初の未 1月29日 4日目

最初の未 1月 5日 4日目

雨量 4

———— = ———— ⇒ 少ない

地下水 4

☆ 旧正月 と 立春

2020年

旧正月 1月25日

立春 2月 4日

立春より早い ⇒ 春が早い 秋が短い

⇒ 立春と同じ頃 ⇒ 平年並み

立春より遅い ⇒ 春遅い 秋が長い 夏短い

☆ 豊作

・小寒の日（1月6日） 少し雨が降る ⇒ 麦 豊作

・小寒の日（寒の入り） 雪降るは ⇒ 豊作

・寒中に雷鳴 ⇒ 豊作

・寒中にしばしば雨降る ⇒ 春 豊作

・早魃 に 凶作なし

・旧暦閏年に 凶作なし （2017年は閏5月で5月が二回あり閏年）

☆ 凶作

・日蝕 ある年は ⇒ 凶作多い

・月食 ある年は ⇒ 蔓作凶作